

昭和十年、海軍の記録映画「赤道越えて」をかんごとくカメラマン二役で製作して評判になりました。昭和十四年には、飛行機をそうじゅうするため教材映画のさつえいを頼まれたので、本格的に飛行機のそうじゅうを習いました。

昭和十七年にさつえいした「ハワイ、マレー沖海戦」は、東宝映画会社に、特殊技術課ができてから五年目の作品です。

ミニチュア、セットはオモチャだといわれていたころ、六千平方メートルの敷地いっぱいには作られた「真珠湾」はたいへん評判になりました。

いちばん苦労したのは、どのようにして本当のような波がつかれるかということでした。人工の波は、どうもつるつるしていて、湾の中の波でも、大洋の波でもない。そこでプールのはしで板を使ってウネリを作り、せん風機の風で、波の上をくずすという方法を考えました。

かん隊が威風堂々として出航するところは、二十畳じきくらいの広さに木で台を作り、トタンをしいてドラムかん三本ほどの寒天を流しこみ、それをペタペタ